

Educo

地球時代の教育情報誌 エデュコ

No.16

2008年 春



2 | 巻頭インタビュー

漫画家

やなせ たかしさん

4 | 知っておきたい教育 NOW

新学習指導要領

次期学習指導要領の基本理念と方向性 児島 邦宏
各教科等の改訂の主な内容 — その要点 — 安彦 忠彦

8 | 世界きょういく見聞録

英国の「Citizenship」教育 長沼 豊

10 | 地球となかよしトピックス

「竹炭づくり」からつながる世界
町田市立小山田小学校

12 | インフォメーション 北から南から

14 | 地球となかよしゼミナール

子どもの心・脳をつくる動物たち 中川 美穂子

15 | コラム いまどきコドモ事情

「わかり合う」って何？ 香山 リカ

16 | ほっとな出会い

ユニバーサル技能五輪国際大会金メダリスト

渡邊 久美奈さん・早乙女 彰将さん



やなせ たかしさん(漫画家・絵本作家)

情報を発信する側は

健全なものを世に出すという

自覚がなくちゃいけない。

「アンパンマン」は、大人にもとても人気があります。

もともとは大人向けにかいた話ですが、なぜ子どもに受け入れられたんです。自分の思っていることをしっかりと言えば、幼児言葉を使わなくても子どもにも伝わるんです。

〇〇マンなどの「ヒーロー」は世界中にたくさんいて、皆、悪いやつをやっつけて正義が勝ったと言う。でも、本当の正義とは何だろうか。例えば戦争でも、A国の正義とB国の正義は違う。爆弾を撃ち込んだ結果、「悪いやつ」だけじゃなく、子どもや一般の人もやられてしまうのに、勝った側が正義になってしまふんです。実際に悪いのは戦争そのものであるのに、相手の国が悪いと。そういった矛盾が「ヒーロー」の中

にはあります。

では立場によって逆転しない正義というのとは何か。ひもじい人がいたら助けるということのほうが正義なんじゃないか。人々の生活がちゃんと保障されていること。それで、自分の顔を食わせて、ひもじい人を助ける正義の味方をつくった。これがアンパンマンだったわけです。言ってみれば「正義」を盾にとる大人への皮肉を込めていたんです。

正義というのは、自分がある程度犠牲にしなければできない。最近なら、食品偽装で会社を告発した人が左遷されたようなことですね。それでも正義を行わなければならない場合というのはある。正義には非常に苦い部分があるんです。しかし、その部分がヒーローものには少ししか

PROFILE

やなせ たかし

1919年生まれ、高知県出身。高知県立高知追手前高等学校、東京高等工芸学校（現千葉大学工学部）卒。代表作「アンパンマン」シリーズ、絵本「やさしいライオン」（フレーベル館）、「手のひらを太陽に」（作詞）など。環境問題についても深い関心を持ち、「地球環境を守る漫画家の会」メンバーとしても活動している。



かれず、悪い相手がやっつけられて、正義が勝ったといつて喜んでいるにとどまっている。そういうことへの疑問が、アンパンマンを誕生させたんです。

アンパンマンにやっつけられる「ばいきんまん」は、やっつけられてもいつも復活しますね。

それはばい菌だからですよ（笑）。我々はいろんな菌の中で暮らしている。菌は悪いこともするけど、いいこともするんです。パンも酵母菌の力がなければできないんですよ。菌の中で暮らしていると病気にもなります。薬を飲んだりしてばい菌と

戦って治す。ところが薬を飲んでもまた新型のパワーを持ったばい菌が出てくる。我々とはばい菌の戦いというのは永遠に続くんです。

アンパンマンがばいきんまんをパンチでやっつけることに対して、暴力で解決するのはどうかという人もいるが、そうじゃない。菌にやられて病気になったときに、暴力をふるっちゃいけないというので薬も一切飲まないでいたら、死んじゃうかもしれない。そのときにはやっつけなくちゃいけない。でも、一回やっつけられたばい菌は全部なくなるかという、なくなりません。また病気になることがある。ですから我々

はばい菌と絶えず戦っていて、それにより抵抗力がついて、また強くもなっていくわけです。ですから、アンパンマン対ばいきんまんの戦いというのは永遠に続く。そうしてその中から活力は生まれるわけですよ。

善と悪のバランスということがあります。我々の体も、バランスがとれた場合は健康になる。ばい菌側の勢力が強くなってバランスが崩れると病気になる。でも、菌が全くいない状態でも健康は保てない。世の中も同じで、善と悪、光と影、いろんなことが入り混じっています。そのバランスがうまく取れているのが健康な社会だと思います。

学校でも、いろんな人間がいて、子どもは中でもまれ、さまざまな人間と接触して一つの人格ができあがっていく。厳しさに耐えていかなければならない部分もある。我々は生まれてくるといろんな病気を経験して育っていく。全く無菌状態のところでは育つたとすると、そうじゃないところに出たらあつという間に菌に負けて死んでしまう。ですから、少し厳しいようではあるんだけど、多少の競争は必要だし、その勝敗の中でやっていかなくちやなら

ない。そして、勝った者は倒れた者を介抱し、相手を励まさないくちやならないと思うんですよ。

情報化が進む現代社会では、子どもはさまざまな情報に囲まれています。

とにかく、世の中に出るものは健全なものが多い。もちろん、闇の部分というのはなくならない。でもそれはごくひそかなところにあるべきものであって、今のようにあからさまに茶の間に入ってくるとか、普通の書店で売っているとかはいけない。

子どもに害のあるものは与えちゃいけないということを、社会はしっかり考える必要がある。僕は、自分の作品には絶対に「毒」を入れないようにしています。

僕が見る限りでも、テレビ番組にしろ漫画雑誌にしろ、これはちよつと困るというものがけっこうある。ほとんどいじめみたいな番組もあって、みんなで大笑いしていたりね。でも、これらを規制することは、自由を圧迫することにつながるからできない。だから、情報を発信する側の人間が自覚するべきなんです。つくる人間、出版する人間、あるいは

スポンサー、それらが「この世の中に毒を流してはいけない」という自覚を持たなくちゃいけない。受けられない、金がもうかればいいというものではないということです。

良心的でおもしろい作品というのも十分にあります。宮崎駿のアニメーション作品は質がよくて、かつ売れています。変に恐怖なんかを売りにしなくても、いい作品はできるし、売れる。それをやるのがプロです。「受けよう」ということが先に立つからだめなんで、喜ばせよう、人を楽しい感じにさせようということとを一生懸命やればいいわけです。

子どもと大人や社会とのかかわりについてお感じになることは。

先生が好きなことを持つと、それは子どもにうつる。教えるテクニク云々というより、先生の好きなことは自然に伝わるんです。これは先生だけではなく、家庭も友達も同じです。そのかわり、先生や周りが嫌いなこと、苦手なこと、悪いことも伝わりますよ。

例えば、絵の好きな先生、体育が好きな先生がいれば、さして先生が教えなくても、そのクラスは絵や体

育が何だか好きになってその活動が活発になる。宮城まり子さんのねむの木学園、あそこの子どもは絵が上手で、すごくいい絵をかくんですよ。別に教えているわけじゃない、宮城さんが絵を好きだからなんです。

学校現場の先生たちには、本当にご苦労様と言いたい。今の子どもは得る情報が豊富で知識が進んでいて、パソコンなんかは子どものほうがまいかもしれない。ですから、先生はさらに勉強しなくちゃいけない。そのうえ行為も清く、正しくなくちゃいけない。しかし、将来の日本や子どものことを考えると、この職に就いた以上は、すごく大変なだけどもがんばってくださいとしか言えない。

ただ、先生の環境が非常によくないですね。僕は、せめて先生が安心して教育に没頭できるぐらいの報酬をと思っているんです。自分はある程度犠牲にしないとこの仕事はできない。本当に大変なんですから、それに見合う報酬がやはり必要です。それがよい先生をつくることにつながっているんですよ。🍷

新学習指導要領

次期学習指導要領の 基本理念と方向性



東京学芸大学教授
児島 邦宏

改正教育基本法、学校教育法の 一部改正

教育基本法が六十年ぶりに改正され（平成十八年十二月）、また学校教育法が一部改正されるなど（平成十九年六月）、次期学習指導要領は新しい「教育の目標」下における最初の改訂であり、そのことを十分に踏まえることが求められている。

具体的には、「公共の精神」「生命や自然を尊重する態度」「伝統や文化の尊重」「国と郷土を愛するとともに国際社会の平和と発展に寄与する態度」といった理念が、新たに目標として加えられた。

これらの目標は、「教育内容に関する主な

改善事項」として反映された。たとえば、「伝統や文化に関する教育の充実」「道徳教育の充実」「体験活動の充実」「環境教育」などの改善事項がそれである。さらにこれらの改善事項は、各教科等の内容の改善として具体化されていく。

「生きる力」の共有と継承

次期学習指導要領のキャッチフレーズということになる、はつきりしない。というよりも、「生きる力」という理念を今後とも継承し、「理念に変化なし」と称しているだけに目新しさを感じないといえはそのとおりである。そのことを前提に、いま一度、「生きる力」を捉え直すことこそ重要である。

その第一は、これまでの十年間、果たして「生きる力」という理念が、教育関係者とはもとより、保護者、国民の間に共有され、目ざす教育の方向としてしっかりと位置づけられていたかどうかである。その反省のうえに、「生きる力」という理念の共有化」が強調されてきたわけである。

第二に、人間力の考え方なども吸収する中で、さらに新たな意味をもって位置づけられている点に注目すべきだろう。その背景や理由としては、大きく次の三点があげられる。

① 新しい知識・情報・技能が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動

の基盤として飛躍的に重要性を増す「知識基盤社会」においては、「生きる力」が能力として求められること

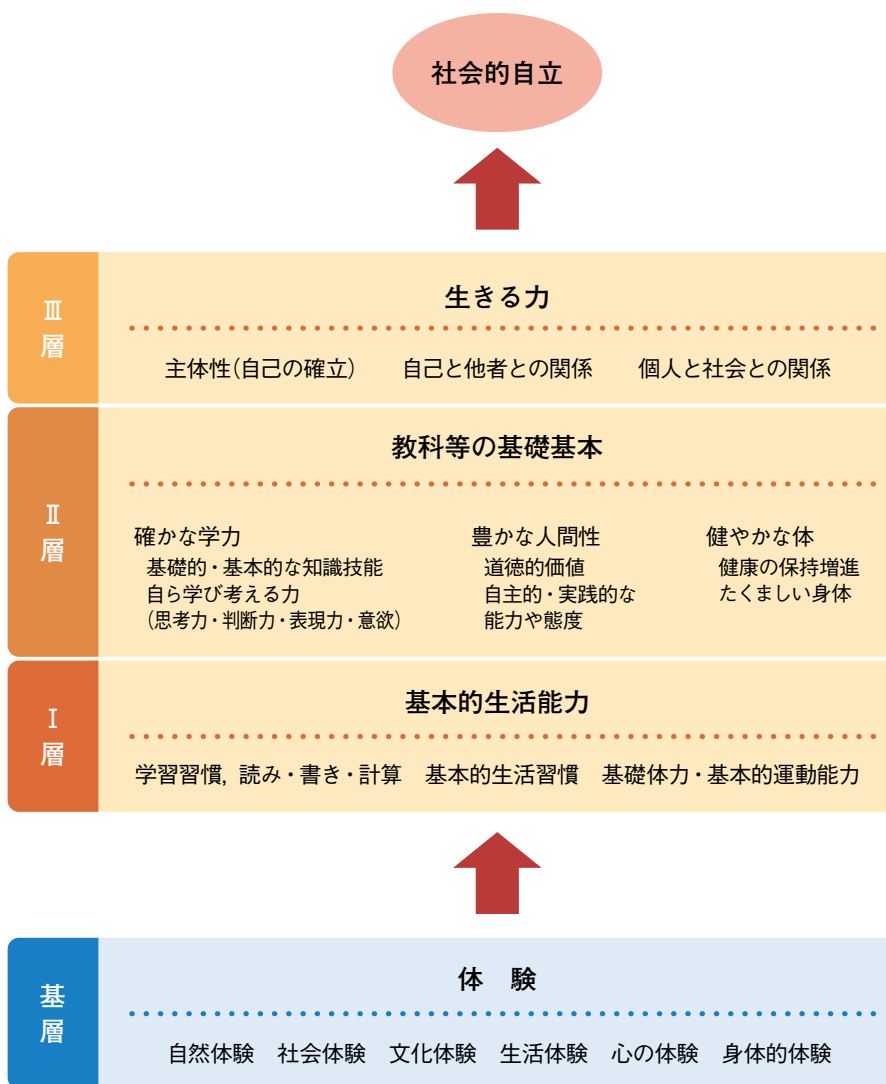
② 教育基本法や学校教育法の改正において、生きる力を構成する学力の重要な三つの要素が明確にされたこと

③ 国内外の学力調査などから、生きる力で重視している事項（思考力・判断力・表現力、知識・技能の活用、学習意欲や学習習慣、自信の欠如や将来への不安など）に課題を抱えていること

学力の構造的把握と課題

振り返ってみれば、この十年間は、学力に揺れ動いた十年間であった。それだけに、次期学習指導要領においては、前述のとおり「生きる力」を確固としてまず位置づけ、その下で二項対立的な学力観（知識か思考力か、教科か総合かといった）ではなく、まず学力を構造的（総合的）に捉え、そこから改善の具体的課題と方策を提示している。

すなわち、学習の基盤として言語能力を位置づけ（言語活動の充実）、その上に基礎的・基本的な知識・技能の習得がある。さらに、自ら考え、判断し、表現しつつ、知識・技能を活用していく。これら各教科等の知を横断的・総合的に駆使し、探求していく力を学校教育の到達点として積み上げていく。



もちろん、これは図式として構造化したもので、実際は、習得↓活用↓探求と一方向に積み上げられるものではない。相互に関連し、行きつ戻りつしながら、力となっていく。改善の具体的課題としては、次の三点があげられる。

① 知識・技能の習得はまずまずであるが、

知の活用の面に大きな課題を抱えている。思考力・判断力・表現力等の育成をどう図るかである。さらに「探求」にも課題がある。② 学力が学校教育の範囲を超えて、子どもの生活や育ち方と大きくかわっていることがはっきりしてきた。そのことをめぐり、学習意欲や学習習慣の確立、体験活動の充

●学習指導要領の求める構造的(総合的)学力観

実、キャリア教育の充実などをどう図るかである。

③ 知的な面のみならず、豊かな心や健やかな体の育成をどう図るかである。食育や安全教育、心身の成長発達についての理解などの充実をどう図っていくかである。中でも、他者とのコミュニケーション、自分への自信、体力の向上をどう目ざすが、大きな改善の課題となっている。

授業時数の確保

「確かな学力の向上」という視点から、授業時数の確保が図られた。それは単に量を増やせば学力が上がるという単純な理論からではなく、授業の質を高めることによって学力向上を目ざすという意味から増加された点に留意する必要がある。

知識・技能の習得・定着を図るには、指導内容を見直すとともに、一回きりの学習では無理で、その繰り返し学習等によって習熟を図るという理由によっている。

また、言葉による説明だけの指導では力はずかず、実験、観察、思考、判断、まとめたり発表したりといった、子どもが自ら学ぶ時間と活動を用意しなければ、活用力、応用力、探求の力といったものは身につかないという理由によっている。そのための時間増である。

新学習指導要領

各教科等の改訂の
主な内容
— その要点 —



早稲田大学教授
安彦 忠彦

はじめに

学習指導要領は各学校が教育課程をつくる際の、国の定める基準であり、各学校はこれに依拠して自校の教育課程をつくらなければならない。ここでは、小・中・高校の各学校の教育課程の中で、個々の教科等がどのように変わるのかについて、その主要な点を挙げて要約的に説明する。

国語・社会における論理的思考・表現と
体験・視野の拡大強化

今回の改訂では、「義務教育9年」の枠の方が小学校6年、中学校3年という枠よりも

重視されたが、その全体にわたって強調されたのが、「言語と体験の重視」ということであつた。これは、小、中、高のいずれでも、教育課程全体で留意すべきこととされている。

その上で、「国語」では「言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成することや、我が国の言語文化に触れて感性や情緒をはぐくむことを重視する」とされている。小・中・高とも「論理的思考・表現」を重視する教材として、文学教材が減り説明文教材等が増えるとともに、日本の「伝統文化」の尊重のために、「古典」に一層親しませる教材が増える。

また、小・中学校の「社会」では、地理や歴史の基本的知識をしっかりと身につけさせ、地図帳や地球儀の一層の活用を図る。また高校では、種々議論があつたが、中学校の歴史分野で日本史の学習を一層強化することにより、高校では視野を広げて「世界史」を共通必修とすることとし、その歴史学習も地理的要素と総合しながら身につけさせることが目ざされる。

「外国語」においては、小学校5年、6年に週1時間「外国語活動」を導入し、外国人とのコミュニケーション能力を強化するとともに、その上に中学校の「外国語」も週1時間増やして言語表現能力の一層の向上を図

●高等学校の教科・科目及び標準単位数について(抜粋・色は必修に関する科目)

	現行		改訂			現行		改訂	
教科	科目	標準 単位数	科目	標準 単位数	教科	科目	標準 単位数	科目	標準 単位数
国語	国語表現Ⅰ	2	国語総合	4	数学	数学基礎	2	数学Ⅰ	3
	国語表現Ⅱ	2	国語表現	3		数学Ⅰ	3	数学Ⅱ	4
	国語総合	4	現代文A	2		数学Ⅱ	4	数学Ⅲ	5
	現代文	4	現代文B	4		数学Ⅲ	3	数学A	2
	古典	4	古典A	2		数学A	2	数学B	2
	古典講読	2	古典B	4		数学B	2	数学活用	2
理科	理科基礎	2	科学と人間生活	2	外国語	数学C	2		
	理科総合A	2	物理基礎	2		オーラル・コミュニケーションⅠ	2	コミュニケーション英語基礎	2
	理科総合B	2	物理	4					
	物理Ⅰ	3	化学基礎	2		オーラル・コミュニケーションⅡ	4	コミュニケーション英語Ⅰ	3
	物理Ⅱ	3	化学	4					
	化学Ⅰ	3	生物基礎	2		英語Ⅰ	3	コミュニケーション英語Ⅱ	4
	化学Ⅱ	3	生物	4		英語Ⅱ	4		
	生物Ⅰ	3	地学基礎	2		リーディング	4	コミュニケーション英語Ⅲ	4
	生物Ⅱ	3	地学	4		ライティング	4		
	地学Ⅰ	3	課題研究	1				英語会話	2
	地学Ⅱ	3	※「科学と人間生活」を含む2科目 または基礎を付した科目を3科目					英語表現Ⅰ	2
						英語表現Ⅱ	4		

●小・中学校の標準授業時数（文部科学省『『審議のまとめ』パンフレット』より）

①小学校

	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育	道徳	特別活動	総合的な学習の時間	外国語活動 (仮称)	総授業 時数
第1学年	306(9) +34	—	136(4) +22	—	102(3) 0	68(2) 0	68(2) 0	—	102(3) +12	34(1) 0	34(1) 0	—	—	850(25) +68
第2学年	315(9) +35	—	175(5) +20	—	105(3) 0	70(2) 0	70(2) 0	—	105(3) +15	35(1) 0	35(1) 0	—	—	910(26) +70
第3学年	245(7) +10	70(2) 0	175(5) +25	90(2.6) +20	—	60(1.7) 0	60(1.7) 0	—	105(3) +15	35(1) 0	35(1) 0	70(2) -35	—	945(27) +35
第4学年	245(7) +10	90(2.6) +5	175(5) +25	105(3) +15	—	60(1.7) 0	60(1.7) 0	—	105(3) +15	35(1) 0	35(1) 0	70(2) -35	—	980(28) +35
第5学年	175(5) -5	100(2.9) +10	175(5) +25	105(3) +10	—	50(1.4) 0	50(1.4) 0	60(1.7) 0	90(2.6) 0	35(1) 0	35(1) 0	70(2) -40	35(1) +35	980(28) +35
第6学年	175(5) 0	105(3) +5	175(5) +25	105(3) +10	—	50(1.4) 0	50(1.4) 0	55(1.6) 0	90(2.6) 0	35(1) 0	35(1) 0	70(2) -40	35(1) +35	980(28) +35
合 計	1461 +84	365 +20	1011 +142	405 +55	207 0	358 0	358 0	115 0	597 +57	209 0	209 0	280 -150	70 +70	5645 +278

②中学校

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語	道徳	特別活動	選択教科等	総合的な学習の時間※	総授業 時数
第1学年	140(4) 0	105(3) 0	140(4) +35	105(3) 0	45(1.3) 0	45(1.3) +15	105(3) +15	70(2) 0	140(4) +35	35(1) 0	35(1) 0	— 0~-30	50(1.4) -20~-50	1015(29) +35
第2学年	140(4) +35	105(3) 0	105(3) 0	140(4) +35	35(1) 0	35(1) 0	105(3) +15	70(2) 0	140(4) +35	35(1) 0	35(1) 0	— -50~-85	70(2) 0~-35	1015(29) +35
第3学年	105(3) 0	140(4) +55	140(4) +35	140(4) +60	35(1) 0	35(1) +15	105(3) +15	35(1) 0	140(4) +35	35(1) 0	35(1) 0	— -105~-165	70(2) 0~-60	1015(29) +35
合 計	385 +35	350 +55	385 +70	385 +95	115 0	115 0	315 +45	175 0	420 +105	105 0	105 0	— -155~-280	190 -20~-145	3045 +105

※上段は標準授業時数、()内は過当たりのコマ数、下段は現行からの増減

る。

理数における活用力重視と 技能教科その他の尊重

「算数、数学」と「理科」は、「理数嫌い」をなくすために、もっと生活に身近な教材を増やし、体験や実験を増やす方向で「実社会・実生活への活用力」をつけることを重視する。小学校低学年の「算数」においては、基礎的・基本的な知識・技能の習得を徹底強化することとしている。また高校の数学では、「数学Ⅰ」を共通必修とするとともに、学校や生徒の実情に応じて単位を減ずる弾力的な対応を認めることとなった。一方、「理科」については、「科学的な思考力・表現力」の育成を図るため、「観察・実験の結果を整理し考察する学習活動、科学的な概念を使用し考えたり説明したりする学習活動、探究的な学習活動を充実する」方向で、観察・実験や自然体験、科学的な体験を重視する。

「生活」は、種々の活動や体験を重視し、幼児教育との連携を一層強化することされた。これに関連して「総合的な学習」については、時数は1時間減ずるがその意義は従前通り重視され、各教科の発展的学習と結合させて、教科と一体的にその目標の達成を図ることとされた。

音楽、図画工作・美術、家庭、技術・家庭、

体育・保健体育などの技能教科については、子どもの体力の低下が深刻であるとの認識のもと、「体育」の時数を小・中とも全学年にわたって増やし、またその他の技能教科も、体育と同様、現行の週時数に小数点があったのを、みな繰り上げて整数の週時数とすることで、その重要性を尊重している。

道徳・特別活動における 社会との連携の強化

今回の改訂では、道徳教育の強化が話題となったが、その考え方に変更はなく、教え方に一層の工夫を施すこととし、「道徳」の時間の教材の充実強化と、社会人の参加による授業を増やすことが目ざされている。これは社会道徳の低下の顕著な大人社会にとっても良い反省の機会となろう。また、「特別活動」については、これまで以上に異年齢体験活動を増やし、集団活動の工夫により社会性の育成を図るとともに、中学校以降の子どもには、職場体験、奉仕体験、地域の美術館や博物館での文化体験などを重視して、学校行事等の工夫を進めることとした。

これに関連して、「部活動」についても、学校で行うことの意義を認めるとともに、社会人による指導を一層拡大し、教師にはその本来の責務である教科教育に専念してもらえよう留意している。

世界 きょういく 見聞録

Vol.3 FROM ENGLAND



世界には、さまざまな学びのプログラムやプロセスがあります。

今回は、子どもたちが将来、市民としての十分な役割を果たせるよう、幅広い知識やスキル（技量）を身につける「Citizenship Education（市民教育）」を紹介します。

英国の「Citizenship」教育

日本においても、「市民科」を教科として導入する事例が見られるようになるなど、社会性を身につける教育が注目を集めつつあります。

イングランドの「シティズンシップ・エデュケーション」は、政治への関心向上、地域の一員としての社会貢献など、多くの目的を持って導入された教育課程です。

学習院大学准教授

長沼 豊

教科「Citizenship」の登場

英国（イングランド）では、2002年から新しい教科「Citizenship」がスタートした。これは7～11年生の中等教育段階に必修教科として導入されたもので（必修教科は他に英語、数学、理科、歴史、地理、情報、技術、音楽、美術、体育、現代外国語）、小学校では各学校の裁量で導入できるようになっている。

なぜ市民教育をわざわざ必修教科として導入する必要があったのかといえば、青少年のコミュニ

ティからの疎外感など社会構造の問題、1992年の選挙で18～25歳人口のうち57%しか投票しなかったことなど政治的無関心の問題、労働人口のうち20%が資格や技能をもたないことなど職能の問題といった、英国における近年の若者の状況による要因が指摘されている。「民主主義の本場」英国を揺るがす若者のさまざまな様態は、市民とは何かを教え、市民性を養うための教科をつくる道へと向かわせたのである。（EUへの統合に対する危機感や移民の流入による多国籍化なども背景にある。）

教科「Citizenship」で育むもの

この新しい教科では、①責任ある社会的行動（social and moral responsibility、学校の内外で児童・生徒が社会的・道徳的に責任ある行動をとること）、②地域社会への参加（community involvement、隣人の生活や地域社会に対して関心をはらい、社会に貢献すること）、③民主社会の知識・技能の習得・活用（political literacy、民主主義の制度、問題を実践的に学び、国や地域社会のなかでそれらを効果的に運用すること）が構成要素となっており、National Curriculumによれば、表1のような内容を扱うことになっている。

表1：市民教育の具体的な内容（キーステージ3：7～9年生）

(1) 知識を持った市民になるために必要な知識の習得	(2) 探求とコミュニケーションに必要な能力の育成
a) 法的権利、人権、義務、刑事司法制度、それらが若者にどう関係しているか	a) 政治的、精神的、道徳的、社会的、文化的な問題や事件について、情報や情報源を分析しながら考えること
b) 英国における国家、地域、宗教、民族の多様性、相互尊重と理解の必要性	b) 以上のような問題や事件について、個人的な意見を口頭や文字で伝えること
c) 中央政府、地方政府、公共サービスについての知識、それぞれがどのように提供され、それらにどのように貢献できるか	c) 議論やディベートに参加すること
d) 議会やその他政府の形態	(3) 社会参加と責任のある行動のための能力の育成
e) 選挙制度、投票の重要性	a) 想像力を使って他者の経験を考え、自分自身とは異なる見方について考え、表現し、説明すること
f) コミュニティ・ベースや全英、国際的なボランティア活動	b) 学校やコミュニティ・ベースの活動に関して交渉、意思決定、参加すること
g) 公正な紛争解決の重要性	c) 参加の過程を振り返ること
h) 社会におけるメディアの重要性	
i) 国際的なコミュニティとしての世界での政治、経済、環境、社会的な関係とヨーロッパ連合や英国連邦の役割	



▲ IT を利用した高校の授業

▼ 高校の授業

小学校・ゲストを案内するのにも
市民教育

これらの内容の学習を通して、①コミュニケーション能力、②数字活用能力、③IT（情報技術）、④他者と協力する能力、⑤自己の学習成果を向上させる能力、⑥問題解決能力の習得をねらっているという。

つまり、教科「Citizenship」は、幅広い知識と能力を身につけることをねらった教科であり、その名のとおり、望ましい市民像の探究という視点で教育を行っている。それは机上の学問だけで得られるものではなく、地域社会の中で課題を発見し、行動し、検証していくタイプの学習によっても体得されるものである。知識の習得に重点がおかれがちな日本の公民科とは異なり、習得型・活用法・探求型など多様な学習スタイルを用いて総合的に市民性を育むべく導入された教科であるといえる。これを日本のカリキュラムに当てはめれば、「公民科＋総合的な学習の時間＋道徳」ということになるだろう。

教科「Citizenship」の現状と課題

筆者が2005年11月に教育技能省や学校などに赴き実施したヒアリング調査によると、2002年に開始された市民教育の現状および課題は以下のとおりである（抜粋）。

- School Council（日本の生徒会活動に相当）で生活課題を解決していくということは市民教育にとって有効な方法になっている。
- 成績評価について、アカデミックな面は測れるが、活動体験を評価するのは難しい。保護者の間では、市民教育は「テストの結果で見えないもの」という認識がある。
- 市民教育では生徒を地域の市民活動・社会的活動に参加させることが重要であるが、あまりうまく

いっているとは言えない（安全面や時間割の問題などが要因）。

- 困難を抱えている教員もいる。担当教員が市民教育の免許をもっているとは限らないからである。先生の質が重要であるため、教員トレーニングを強化しなければならない状況になっている。
- 社会的活動については、ボランティア活動がさかんな英国らしく、各種ボランティア団体が学校支援を行い成果をあげている（詳細については、長沼豊著『市民教育とは何か ―ボランティア学習がひらく―』ひつじ書房、2003年、などを参照されたい）。

新教科として開始されたばかりであるため、さまざまな課題があることも事実である。今後は、学校と地域社会との連携・協働により、この教科の実践を支援するシステムを構築することが求められる。日本のすぐれた実践も参考になるのではないだろうか。🌀

● 参考

東京都品川区における「市民科」設置の基本的な考え方（小中一貫、1～9年生）

人間（市民）としてのあり方・生き方について、教養を深め、自分を生かす能力と市民としての社会性を身につける。

- 人格の基盤となる知識や知恵
- 規範となる行動様式
- 社会性や人間関係を築くスキルと意識の向上
- 社会の仕組みや職業に関する関心、知識

品川区教育委員会

<http://www.city.shinagawa.tokyo.jp/jigyoku/06/>



火入れした竹炭窯を見つめる子どもたち。火がよく燃えるように風を送る。理科の授業で使っていた送風機も再利用されている。
この後、10時間余りをかけて竹炭が焼き上がる

東京都町田市立小山田小学校 おやまだ

「竹炭づくり」からつながる世界 たけすみ

小山田小学校は、横浜市を貫いて流れる鶴見川の源流地域にあり、豊かな自然環境に囲まれた、環境教育に力を入れている学校です。地域やNPO団体などの協力を得ながら、校庭の芝生化や鶴見川の研究、里山の保全などに熱心に取り組んでいます。



タイ・サムソップ小学校とのフレンドシップ協定書

■ 周辺環境を生かした ■ 「竹炭づくり」

小山田小学校では、4年前から「竹炭」づくりに取り組んでいる。学校の周りには里山・竹林が広がっているが、手入れがなかなか行き届かない。竹は放っておくと根がはびこり、山を荒らす原因となる。そこで町田市から、学校里山自然林として小山田小学校に管理が委任されることになった。西岡郁雄校長先生は、地域の人々の集まり「小山田会」の協力を得て、竹を材料に炭を焼くことで里山保護に役立てようと計画した。できあがった炭は、家庭で湿気と

りや消臭に役立つほか、川の水質を浄化するといわれる。総合的な学習や理科の時間を利用し、鶴見川の環境調査を行ってきた小山田小学校にまさにぴったりの計画だったのだ。

■ 地域の協力があってこそ！

2月27日朝9時、いよいよ「竹炭」の窯入れの日を迎えた。今年度は、5年生が昨年秋に竹を伐採、4年生が竹を割った。そしてこの日、6年2組の31名と担任の松田寿大先生が窯入れ作業を行い、竹炭づくりは大詰めを迎えた。

きれいに割られ、40日間乾燥させた竹を、びっしりと窯の中に詰め込



▲きれいに形をそろえた竹をどんどん詰める
 ◀小山田会特製「竹割り機」。中に十字の刃がセットされている
 ▼刃物を扱うのも経験の一つ



桜祭りでは自分たちの手で竹炭を売る



すきまなくびっしり詰め込む



小山田小学校は、タイ北部の山間部にあるサムソップ小学校と、A E F A（特定非営利活動法人アジア教育友好協会）のフレンドシップ協定

■竹炭づくりは世界ともつながる

焼き上げられた竹炭と副産物の竹酢液は、4月上旬、地域の桜祭りでも新6年生が販売し、次の学年に活動が引き継がれる。子どもたちは、竹炭や竹酢液の使い方、効果などを説明し、どうしたらよく売れるかを自分たちで工夫する。竹炭づくりは、社会体験にもつながっているのだ。

校長先生は目配りを欠かさないが、子どもたちの作業に極力口や手は出さない。「作業の基本は教えるけれど、何でも体験して覚えることが大事。それには失敗しても責めないこと、やり方を押しつけないこと」。

中。中の熱が逃げないように、窯の入り口のすきまに土を踏み固め、点火！子どもたちの作業は手馴れたものだ。勢いよく出る煙に、せきこんだり目をしばたかせたりしながらも、風を送って火がよく燃えるようにする。

を結んでいる。

子どもたちは、厳しい経済状態の中で学ぶタイの小学生へ、竹炭を売って得たお金を全額寄付することに決め、その活動は毎年続いている。

環境教育を通じて両校は交流を深めている。小山田小で行った鶴見川の調査発表報告を送ったところ、それを参考にサムソップ小でも川の水の調査を行った。この調査で使う教材費にも、小山田小から送られた寄付金が使われたという。それが環境教育コンクールで入賞し、小山田小に喜びの報告が届いた。校長先生は言う。「自分たちの活動がどのようなところに、どうつながっているのか、今ははっきりわからなくてもいい。『正しい見方』を教えるのではなく、問題意識を持って、いつか自分なりの見方で、自分自身で考えられるようになればいい。」

卒業間近の6年生たち。「中学でも環境への取り組みを続けたい！」と話す。校長先生のまいた「意識」の種は確実に育っているようだ。

▼町田市立小山田小学校

<http://www.machida-ky.ed.jp/e-oyamada/>

山梨県

北杜市立泉小学校教諭 丸茂 哲雄

楽しい授業をめざして デジタルペンを活用した「個に応じた指導法」

楽しい授業とは、「学習内容が理解できる」「自分の考えをみんなに理解してもらえる」「新しい発見がある」「達成感を味わえる」ことが土台にあると思います。デジタルペンを使う授業は、この条件をすべてクリアできるのです。

児童が、課題や発問に対して、自分の考えや答えを導く思考の過程をデジタルペンで専用紙に書くと、リアルタイムで教師のパソコンに書いた内容が送信され、記録されます。必要に応じて、考えの分類、データの再生や保存ができ、プロジェクターを使えば一人一人の考えを投影することもできます。本校では、1年生から6年生まで、算数・国語・社会・理科・図工・生活科・総合など、幅広く有効活用しています。

子どもたちからは、「自分の考えをみんなに伝えることができた」「発言できるようになった」「書く時に緊張するけど楽しい」「みんなのいろいろな考え方が理解できるので魔法のペンだ」等大好評で、みんなデジペン授業を大変待ち望んでいます。

教師サイドでは、①子どもたちの考え方や解答の結果が瞬時に評価でき、「指導と評価の一体化」が的確に行える ②学習歴をデー

タ保存できるので子どもの変容を大切にできる ③授業をより深めるために、どの児童の考えや答えを発表させたら有効か、授業づくりが的確に行える ④思考力や表現力を育成できる等、大きな利点がいくつも確認できました。

学習指導要領改訂案が出され、基本的な知識や技能を活用し、思考力や判断力や表現力を育成することが重視されています。デジタルペンは、子どもたちの考える意欲や表現する意欲を高め、また教師力を高めるツールとして、今後大きな注目を集めるのではないかと思います。



INFORMATIO N

北から

全国各地のさまざまな取り組みを紹介します。

佐賀県

佐賀市教育委員会子ども課指導主事 内田 真弓

幼保から小へ 「なめらかな接続」をめざして

本市には、幼稚園 43 園・保育所 38 園・認可外保育園を含めると 100 園以上あり、一つの小学校に 10 カ所を越す幼稚園・保育園から入学します。園児の通園状況は市の広範囲にわたっており、幼保小の接続期の問題は、市全体で取り組む必要があると考えました。

そこで、幼児期の育ちを大切に、育ちと学びの連続性をめざして小学校へのなめらかな接続を図りたいと考え、幼保小の連携に取り組んでいます。

取り組みのポイントの一つ目は、「幼保小の交流を多くし、相互理解を図ること」です。具体的には、全小学校区で、幼保小連携会議の充実を図り、年間3回以上の連携会議の開催を提案しています。今年度は特に小学校の全教師に、幼稚園や保育園での子どもたちの様子や保育者の環境づくり等の手だて・援助について紹介したパンフレット「幼稚園・保育園の1日」を配布して、保育参観・保育体験を呼びかけました。

二つ目のポイントは、「育ちと学びの連続性を図るため、つながりを意識した指導を行うこと」です。交流をするだけでなく、実際に、お互いの育ちや学びを意識した指導を行

うためのプログラムを提案・実施しています。

このプログラムは、5歳児の12月から1年生の5月までの6カ月間です。幼稚園・保育所で卒園までに身につけてほしい力を意識した、「遊び」を中心とした「えがお」と、小学校の国語・算数・生活科の53時間分を中心とした「わくわく」からなるプログラムです。私立を含めた幼稚園・保育所とすべての小学校で、それぞれの実態に合わせながら取り組んでいます。



埼玉県

本好きの児童をめざして

司書教諭として

さいたま市立大谷口小学校教諭

鶴田 裕子

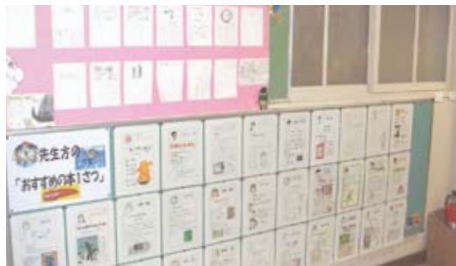
本校は、国語力向上を目標に校内研修を推進し、その研究を支える柱として読書活動にも積極的に取り組んできた。学校図書館には、いつも子どもたちの読書する姿があり、休み時間の貸し出しも多い。今年度の利用状況を見ると昨年度より貸し出し数が増加しており、うれしいかぎりである。

さいたま市では、「さいたま市の子どもたちは日本で一番本が好き」の目標を掲げ、さまざまな取り組みが行われている。その一つに市立図書館と市内全小中学校（158校）を週1便巡回する学校図書館用図書運搬事業がある。市内全小中学校の140万冊の蔵書を共有していることになるため、他校の蔵書の検索や情報交換が可能になり、授業で必要な図書の確保や有効活用が図られてきた。さらに、専門の資格をもつ学校図書館司書が全校に配置されているのも特長だ。

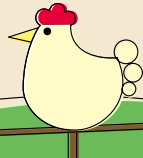
本校では、昨年度から隣接中学校との小中連携読書郵便を始めた。お互いに紹介したお

薦めの本を読み、返事を書く活動である。将来的には近隣の小学校との交流も視野に入れている。11月の読書月間では、全教職員による「お薦めの本一冊」を紹介している。各自が工夫した内容で児童にアピールし、職員室前に掲示している。児童にはとても好評である。

司書教諭としての私の一日は、学校図書館のコンピュータの電源入れから始まり、机を拭いたり、花の水やりをしたりする。児童や学校図書館司書が気持ちよく一日を迎えることができるようにと願っている。司書教諭と学校図書館司書のそれぞれの役割が十分に機能し、学校図書館の一層の活性化につながるよう連携を密にとるようにしてきた。本校の児童がもっと本好きになるように、これからも努力していきたい。



南から



本校は、東京都の南東部に位置し、東京駅まで20分と交通に恵まれた集合団地の中にある学校です。東京都では唯一、養護教諭出身の校長として、学校経営方針の柱の一つに、体育・健康教育を推進しています。平成19・20年度研究協力校を引き受け、「子どもいきいき南砂」をテーマに保護者・地域・専門家・企業と連携した健康教育を展開しています。

栄養士は「食べ物博士」と称して、アラカルト給食、園児を招く小1プロブレム給食、干し柿づくりなど食に関する指導を充実させています。また、養護教諭が健康プロジェクトチームを組み「すくすく健康大作戦」を展開し、早寝早起き朝ごはん・テレビを消して外遊びなど生活習慣の定着に取り組んでいます。日曜授業参観時に児童・保護者・地域・学校医等が参画する地域拡大学校保健委員会を開催しています。今年度は「心の健康づくり—五感を呼び起こす健康講座」として、児

童が体験する講座を開催しました。安全教育では、東京都安全教育開発プログラムの委託を受け、「児童目線での安全マップ」「短時間で学ぶ安全指導」等を作成しました。体力向上では、昔遊び、仲良し班遊び、体育集会、マラソン月間、縄とび月間、公民館に寝泊まりする「合宿通学」を行っています。

また、6年生全員でお琴の合奏、和室での全校児童と校長との懇談給食と抹茶体験、俳句、百人一首などの和の教育も充実。ネイチャークラブ、ビオトープなどの環境教育など総合的に健康安全教育を展開しています。今のところ、いじめ、不登校、学級の荒れもなく全校児童が生き生きと学校に通ってきています。さまざまな取り組みが評価され、19年度、東京都健康づくり優秀学校、日本学校保健会優秀賞を受賞しました。



東京都

ヘルシースクール南砂

江東区立南砂小学校校長

牛島 三重子

地球となかよし ゼミナール

子どもたちのメッセージに学ぶ

「地球となかよしメッセージ」応募作品を手がかりに、
教育にかかわるキーワードをクローズアップ。

今回は、07年度の応募作品から、「子どもと動物のかかわり」について考えます。

「動物飼育」

子どもの心・脳をつくる動物たち



幼児期から10歳までの子どもたちは、いじめられて泣いたり、人の役に立つてお礼を言われて喜んだり、気持ちよくなった昆虫に死なれて悲しんだり、とさまざまなエピソードを体験して「自然や人とのかかわり、優しさ、我慢、努力して得られる喜びなどを感じる感性」と「わきあがる疑問を感じて、解決にむけて努力する知恵」を培う時期です。もちろん10歳以降も努力によってそのような脳の回路を発達させることはできますが、やはり0歳から10歳までの驚異的な成長・発達にはかないません。この脳の発達があれば、将来、人としての豊かな人生が送れるでしょう。

その大事な幼児期の脳回路を刺

激する体験には、昔から花、木、石、土、風、水、そして動物の7体験が挙げられています。動物は他とちがつて勝手に動き回り、目があるのも子どもたちは夢中になります。特に目を合わせることで、感情を表す哺乳類や鳥類は特別で、西洋ではコンパニオンアニマルといつて他とは分けて考えられています。

これらの動物に对峙したとき、子どもは、動物の感情を推し量りながら、自分より小さな、弱々しい動物をかわい、何とかしてあげたいと、本気で工夫していきます。この心を使う体験は、いつも大人の世話を当然と受け取り、かばわれていることにも気づいていないかもしれない子どもたちにとって、

得がたい貴重な体験になります。

今回の作品に、動物を気遣う心の育ちを見て、うれしく読ませていただきました。松本さんは、ツバメの巣づくりの様子が気になって、巣を捨てなければならなかった親ツバメの気持ちを推し量り、巣材の自然の土が少なくなつたのでは、と広い視野で人と自然の関係を考え、自分たちができることまで考えています。

定地君は、愛らしい小さな捨て猫たちを見て、同情を覚え、ほうっておけなくなりました。そして、その猫の命と生活を引き受ける決心をするのですが、「なぜ捨てる？」と、捨てた人の冷たい心に問いかけます。里親たちを見つけて、子猫とかかわれる幸せを分

け合えることもできますね。親御さんも、定地君の気持ちをしっかりと受け止めてくださるので、幸せですね。

二人とも、日常の中で大人たちが目にも留めないことを、目から心で受け止め、広くアンテナを働かせながら頭脳で反応しています。

脳科学者は、子どもは親御さんの愛情のもと、普通の環境で育てていれば普通に育つと言いますが、二人ともに「かわいい物を見たらかわいい」「かわいそうなものを見たら、かわいそう」と感じる感性が育っているのがわかります。きつと愛情豊かな人生を送ることができそうです。子どもの心を大事にして育てておられる親御さんに乾杯です！

全国学校飼育動物研究会事務局長
全国学校飼育動物獣医師連絡協議会
主宰
中川 美穂子



こわれかけたつばめのす

●松本 愛梨

さいたま市立沼影小学校3年

私の教室のベランダに、つばめがすを作りました。

さいしょは、きれいな形をしていましたが、だんだんこわれはじめてしまいました。教室のみんなはそれが気になってしかたがありませんでした。そこでつばめかんさつがかりを作りましたが、始まって一ヶ月、つばめはすだけをのこして、あぶないとかんじたのか、どこかへいってしまいました。

もうすは、ほとんどありません。つばめがいなくなったらすごくさみしくなりました。しぜんが、へって作る土をさがす事もないかなのでしょうか。みんなでしぜんをまもりつばめが安心してすをつくれるようになるといいなと思いました。つばめがもとのすに帰ってきてほしいな。



一つ一つの命を大切に！

●定地 遼大

東広島市立志和堀小学校6年

8月のある日、ぼくが部屋でねころんでいると、「ニャーニャー」という声がきこえてきました。子猫が4匹捨てられていました。その子猫をぼくの家で飼うことになりました。実は、前から飼っている猫も捨て猫でした。

なぜこんなにかわいい命を捨てて行くのか分かりません。どんなに深い事情があろうと、大切な命なのです。捨ててはいけないと思いました。ぼくは、この小さな命を大切にしたいと決めました。

「わかり合う」って何？



香山 リカ
(精神科医・帝塚山学院大学教授)

今ほど、「家族が大事」というメッセージがあふれているときにはない。雑誌を開いてもテレビのCMを見ても、愛情で結ばれた仲良し家族が目飛び込んでくる。

でもよく考えてみると、家族のひとりひとは別の人間だ。考え方が違う、なんとなく気が合わない、などという場合も当然、あるのではないだろうか。

診察室には、「家族とうまくいかない」という悩みを抱えた人も大勢、やってくる。よく聞くと、うまくいかないと言っても、毎日の生活はそれなりに送れている人も少なくない。それでいいじゃないですか、と話すと、ある母親は答えた。

「でも、親子ってなんでもわかり合い、愛し合うものなんでしょう？ 私、子どもの考えていることがどうもよくわからなくて、口げんかが絶えません。」

この母親の頭の中の家族とは、いつもニコニコ、何をするのもいっしょ、ワゴン車のCMが何かに出てくるようなイメージらしい。そして、そこからはみ出た自分たちは「家族失格」と勝手に思い込んでいるのだ。こうなると、“愛の家族強迫症”とでも呼びたくなってしまふ。

「いいんじゃないですか、それぞれ距離があってもなんとなくいっしょにいるんだから」と話すと、その母親は驚いたような顔をした。「子どもの心に悪い影響はありませんか？」「ありませんよ。話さなくてもなんでもわかってるわよ、と子どもの心を支配するより、わからないから話して、きちんと伝えるほうがよほどいいんじゃないでしょうか」。会話を重

ねるうちに、母親の表情が柔らかくなっていった。“愛の家族強迫症”から解放され、肩の力が抜けたのだらう。

親子の数だけ、家族の形もある。マスコミが作り出す家族のイメージにとらわれすぎて自分らしさを失うというのが、いちばん心の健康や発達によくないはず。もちろん、「家族が大きい」というのはあまりハッピーなことではないが、「人間としてちょっとタイプが違うかも」と思う程度は、悪いことではない。そこで大切なのは、「だからかかわらない」のではなくて、「わかり合えないからこそかかわり、話してみる」という姿勢であることは、言うまでもないだろう。



イラスト ひらた ひさこ

作品募集

地球となかよし メッセージ 2008

地球上の自然や人々となかよくやっていくにはどうしたらよいかを、写真またはイラストにメッセージをつけて表現してください。

<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>



◎主催／教育出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-10 TEL 03-3238-6982 FAX 03-3238-6975

◎協賛／日本環境教育学会 ◎後援／環境省、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞



詳しくはホームページを見てね。(昨年の優秀作品展示もあるよ。)

応募者全員が参加賞もらえるよ♪



【対象】小学生、中学生

【締切】2008年9月30日

ほっとな 出会い

二〇〇七年ユニバーサル技能五輪国際大会
造園部門・金メダリスト

わたなべ
くみな
渡邊 久美奈さん

さおとめ
あきまさ
早乙女 彰将さん



渡邊久美奈／87年生まれ。静岡県立静岡農業高校卒。05年小杉造園(株)入社。
早乙女彰将／86年生まれ。東京都立農芸高校卒。05年小杉造園(株)入社。

●ものづくりを学びたい！

渡邊 実家が石材業を営んでいました。小さい頃から親の手伝いなどをしていて、ものづくりって楽しいなど。絶対ものづくりを学びたくて、いろいろ調べて、土木や庭づくりを学ぼうと環境科学科への進学を決めました。

早乙女 体を動かしての授業、体育とか美術、技術などが好きだったので、自分に合っていると思ったのが農業高校。小さいころから虫や自然が好きで、自然と触れ合えると思って。ここで造園を学び、とてもおもしろいと感じて、この道に進むことにしました。

●恩師の示した技能五輪出場への道

渡邊 高校生のときに前島先生(前島良彰先生・静岡農業高校教諭)が、社長(小杉造園(株)小杉左岐氏)と高校の技能検定の検定員と一緒にして、若手を育ててくれる社長で、技能五輪にもすごく力を入れていたからと勧めていただき、進路を決めました。



早乙女 高校でお世話になった小杉橋先生(小杉橋二三男先生・都立農芸高校教諭・当時)から急に

新聞を見せられて、技能五輪というのがあるから前出てみないか、やる気があるなら出させてもらえるいい会社があるよ、と。すぐに「やります！」と答えました。

渡邊 先生からは、何事にも挑戦することを教えていただいたのが大きかったです。まずはいろんなことに興味を向けることからチャレンジしていったら自分の道が拓けるんじゃないかと。

早乙女 小杉橋先生は、やる気を出させてくれる先生でした。学んでいることをおもしろい、と思わせてくれる教え方をしてくれました。僕の興味のあるところを見ていてくれたんですね。

●つらかった社会人一年目

早乙女 外でやる仕事なので、夏の暑さと冬の寒さは本当にきつ、もうやめたいと思いました。夏は屋根の上に登ると五十度以上あって、もう汗なのか涙なのかわからないような感じで、倒れそうでした。これから何十年もこれが続くのか、自分にはとてもできないんじゃないかと。でも、一年目は基礎体力をつけるという会社の方針のもと、続けていくうちに少し慣れてきて、今は本当にこの仕事を一生続けたいと思います。

渡邊 入社して何度も挫折しました。初めて社会に出て、何もかもがわからない状態で。こちらに知り合いもいなかったし、体力もついてい

けない。最初は人間関係とかもつらくて、何度も逃げ出しそうになりました。前島先生に、もうやめたいと泣きながら言ったこともあったんです。でも先生に、決めたことは最後までやり遂げろと言っていたので、そうだ、ここでやめてしまったら後悔する、絶対やり遂げていい結果を残したいなと思ったんです。

仕事は、今でもきついです。でも、社長が現場の職人さんたちに気を遣ってくれて、冬はカイロをたくさん持ってきてくれたりして、そういう気遣いでつらさが少し和らいでいます。

●周りの支えあつての技能五輪出場

渡邊 会社の皆さんが稼いだお金を私たちの練習のために使わせていただいて、本当にありがたいと思います。私たちが落ち込んでいて聞いたときには、それとなく励ましてくれるなど、支えてもらっていることに感謝しています。

将来は、家族みんなでガーデニングを楽しめるような庭をつくりたい。みんなが庭づくりに興味を持って楽しんでもらえるようなものをつくりたい。大会が終わったばかりで現場はまだまだ一からなので、先輩に教えられるようにもつと学んで、努力していきます。

早乙女 技能五輪を通して得た技術を生かして、現場を仕切るようになり、一人前になりたい。先輩や学生さんたちが見て、こういう人になりたい、造園業界に入りたいと思えるような、子どもたちの目標になるような職人をめざしたいと思っています。

★ユニバーサル技能五輪国際大会

世界各国・地域の予選を勝ち抜いた22才以下の技能者が優れた技能を競う大会。2年に一度、世界各地で開催される。07年の第39回大会は静岡県で開催、46カ国が参加し、47職種競技が行われた。日本は16部門で金メダルに輝く(獲得数世界一)。造園部門では初の金メダル獲得。

Educo Salon

前号について寄せられたご感想です。

- ◆「地球となかよしメッセージ」入賞作品。すばらしい情報発信力。感受性豊かな子どもたちの素直な気持ちが表現され、短い文章ながら大きな伝達力を持っている。(新潟 小黒正範)
- ◆「銚子市外川三郷土資料館」。身近な地域の教材は、子どもたちが主体的に学習に取り組むことのできる格好の教材。地域教材の宝庫とも言える郷土資料館に尽力されている方々に敬意を表するとともに、各地でこのような取り組みが広がっていくことを期待する。(兵庫 山口芳弘)
- ◆安田祥子さんの「家庭で童謡を歌ってあげてほしい」に共感。家族が歌っている歌を自然と覚え、心に残っていく、人と人のつながりを大切にしたいものです。(北海道 瀬波金直)

なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命のびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。